令和元年度第１回八千代市まち・ひと・しごと創生懇談会　会議録

１　開 催 日 時　　令和元年 9 月 13 日（金）10 時から 11 時 45 分まで

２　場　　所　　八千代市役所　別館 2 階　第 1・2 会議室

３　出　席　者　　＜委員＞7 名
佐藤　俊恵委員，田中　宏行委員，永長　徹委員，増澤　洋一委員
田中　康弘委員，島　勝彦委員，町塚　栄介委員
＜事務局＞7 名
服部市長，小川企画部長，加藤企画部次長
原田企画経営課主幹，井澤副主幹，山岸主査，赤川主任主事

４　議　　題　　(1)　座長の選出について
(2)　総合戦略に係る取り組み状況について
(3)　総合戦略及び人口ビジョンの改訂について
(4)　その他

５　公開・非公開　　公開

６　傍　聴　人　　1 名（定員 5 名）

【議　事　録】

1　開会
2　市長挨拶
3　自己紹介
4　議題
（1）座長の選出について
○事務局
　議事の進行は規定により，座長が行うことになっておりますが，まだ，座長が選出されておりません。選出までの間，企画部長の小川が仮議長として，議事を進行いただきたいと存じますが，皆様，よろしいでしょうか。
　異議がないようですので，企画部長の小川が進行をいたします。

○仮議長
　それでは，会長が選出されるまでの間，仮議長を務めさせていただきます。皆様，ご協力のほど，よろしくお願いいたします。
　それでは，ただいまから，八千代市まち・ひと・しごと創生懇談会を開催いたします。
　はじめに，議題（1）「座長の選出について」をお諮りいたします。「八千代市まち・ひと・しごと創生懇談会設置要領」第 4 条第 1 項の規定により，座長は委員の互選によって定めるとなっております。
　どなたか立候補，あるいはご推薦はございませんでしょうか。

○田中（康）委員
　八千代市の商工団体の代表であり，市の地方創生に長らくご尽力されていらっしゃる，商工会議所専務理事の田中（宏）委員にお願いできればと考えております。

○仮議長
　ただいま田中（宏）委員を推薦するご意見がございましたが，いかがでしょうか。
　それでは座長は田中（宏）委員としてよろしいでしょうか。
　異議なしとのことですので，本懇談会の座長は田中（宏）委員に決定いたします。これで仮議長としての進行を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。以後の進行は，田中座長よろしくお願いいたします。

○田中座長
　議長を務めます田中です。皆様，ご協力のほど，よろしくお願いいたします。
　それでは，はじめに座長の職務代理の選出に入らせていただきます。懇談会設置要領第 4 条第 3 項の規定によりますと，「座長に事故があるときは，又は欠けたときは，座長があらかじめ指名する委員が，その職務を代理する。」こととされております。

私から，千葉県で葛南地域の広域事務を担当していらっしゃる永長委員を指名したいと思いますが，よろしいでしょうか。

〇永長委員
はい。

〇田中座長
ありがとうございます。それでは，以上のとおり議題（1）について決定いたしました。
それでは，会議次第に基づき，議事を進めてまいります。
議題（2）「総合戦略に係る取り組み状況について」，事務局の説明を求めます。

（2）総合戦略に係る取り組み状況について

〇事務局
企画経営課の赤川でございます。私から，「総合戦略に係る取り組み状況について」について，説明させていただきます。恐れ入りますが，着座にて失礼いたします。
まず資料の確認をさせていただきます。
【資料確認】
それでは，お配りしている資料のうち，資料1－1をご覧ください。総合戦略の各種施策に係るご説明の前に，まち・ひと・しごと創生の目的として，少子高齢化の進展に的確に対応し，人口減少に歯止めをかけることが掲げられておりますので，まずは八千代市の人口動向につきましてご説明させていただきます。
まず，1頁の「1　市の人口推移」(1) 総人口の推移をご覧ください。本市の人口につきましては，1967年（昭和42年）1月1日の市制施行以来，2011年3月に発生しました，東日本大震災の影響を受けた2012年を除き，現在まで人口が増加しております。
中段のグラフをご覧ください。こちらは，1989年（平成元年）から2019年までの各年3月末時点における人口の推移を表しております。1996年以降に大きく人口が増加しておりますが，こちらは東葉高速線の開通に伴い，沿線の開発が進んだことが影響しております。
次に2頁の（2）年齢3区分別人口の推移をご覧ください。初めに0歳から14歳までの年少人口につきましては，2010年まで増加を続け29,442人となりましたが，その後減少に転じ，2019年では26,239人，総人口に占める割合は13.2%となっております。
次に15歳から64歳までの生産年齢人口につきましては，2004年をピークに減少を続けていましたが，2016年以降，西八千代北部特定土地区画整理事業の進展に伴い，2019年では123,016人，割合は61.8%となっております。
最後に65歳以上の老年人口につきましては，年少人口や生産年齢人口とは異なり増加を続け，2019年では，2000年からおよそ20年間で約2.5倍の49,710人となり，総人口に占める割合は25.0%となっております。
年齢3区分別人口の割合をグラフで見ますと，年少人口と生産年齢人口は減少傾向にありますが，老年人口は2005年に年少人口を上回り，その後も増加傾向にあるのがわかります。

次に3頁の「2　人口移動の動向」(1) 自然増減・社会増減の推移をご覧ください。

転入と転出の差による「社会増減」では，東日本大震災の影響を受けた2011年度を除き，転入数が転出数を上回る「社会増」を維持しております。

また，出生と死亡の差による「自然増減」では，出生数が死亡数を上回る「自然増」を維持しておりましたが，その差は縮小傾向にあり，2017年以降「自然減」となっております。

今後の見込みとしましては，西八千代北部特定土地区画整理事業の進展に伴う「社会増」が人口増加をけん引する見込みですが，その後は全国の傾向と同様に減少に転じることが見込まれております。

次に4頁の (2) 合計特殊出生率の推移をご覧ください。

合計特殊出生率とは，人口統計上の指標で，15歳から49歳までの女性に限定し，各年齢の出生率を足し合わせ，一人の女性が生涯に何人の子供を産むのかを推計したものになります。

本市の合計特殊出生率は1996年以降1.25から1.35の間を推移していましたが，2008年から増加傾向にあり，千葉県より高い数値で推移しております。出生数は2002年には1,992人でしたが，その後は減少傾向にあり，2017年では1,475人となっております。

次に5頁の (3) 年齢階級別純移動数をご覧ください。

こちらでは5歳刻みの階級別で，5年後にどれだけの人口が移動しているかを表したグラフとなっており，プラスであれば転入，マイナスであれば転出していることになります。国勢調査の結果を基に，本市の年齢別純移動数を時系列推移で見ますと，子育て世代である20代から30代の層と，その子どもである0歳から9歳までの層が転入超過の傾向となっております。また，1996年の東葉高速線開通以降に子育て世代の転入超過が拡大していますが，最新の2010年から2015年の純移動を示す紫の線を見ると，転入超過数は縮小していることがわかります。

次に同じ5頁の (4) 移動相手自治体別の転入超過・転出超過の状況をご覧ください。

直近3か年ではいずれも転入超過となっており，県内の近隣自治体からの転入が多くなっております。近隣自治体の内訳では，市川市・船橋市・習志野市など主に八千代市より西側に位置する自治体からの転入が多い一方で，佐倉市・印西市などの八千代市より東側または北側に位置する自治体への転出が多くみられます。

次に6頁の人口変動状況をご覧ください。

平成30年度末と平成26年度末の人口変動状況を地区別に色分けした図となっております。人口増加を示す赤色の地域では，村上や大和田新田，緑が丘西など東葉高速線沿線に集中しておりますが，沿線の中でも平成4年に換地処分公告を行い，25年が経過している萱田地区のほか，緑が丘でも減少しているのがわかります。その他，昭和45年に入居開始した米本団地をはじめ，高津団地，村上団地のＵＲ団地はいずれも人口減少しております。

次に7頁の高齢化率状況をご覧ください。

それぞれの各地区における65歳以上の人口が占める割合を色分けした図となっております。こちらも先程の人口変動状況と同様に，東葉高速線沿線は高齢化率が20%未満の地区が多く，高齢化率が低い傾向にあります。高齢化率が高い地区として，ＵＲ団地の3団地のほか，京成線沿線の勝田台や八千代台，市北部全域が相対的に高齢化率が高くなっております。

八千代市の人口の動向といたしましては，以上のようになっております。

続きまして，総合戦略に係る主な取り組みについて，ご説明申し上げます。資料1－2及び資料1－3を併せてご覧ください。

総合戦略の構成としましては，基本理念に「絆(つな)がる・創る”和”のまち　八千代」を掲げ，4つのプロジェクトから構成されており，24項目のKPIと95項目の具体的な取り組みを計画に位置付けております。

今回は，各プロジェクトに掲げている主要なKPIと，それに対する主な取り組みにつきまして，ご説明申し上げます。

はじめに，資料1－2，1頁の左上，「Ⅰ．若い世代応援プロジェクト」をご覧ください。

まず1つ目のKPIの「保育園待機児童数」につきましては，基準値の42人に対し，平成31年4月1日現在で30人となっております。民間保育園の新設などに対する施設整備費の補助や認定こども園への移行の推進により，平成27年4月の定員から836人増加し，今年度はさらに３か所の民間保育園の新設を予定しておりますので，引き続き，待機児童数の解消に努めてまいります。

2つ目のKPIの「学童保育所待機児童数」につきましては，基準値の173人に対し，平成31年4月1日現在で100人となっております。学童保育所の新設や既存学童保育所の定員の拡大を行ったことにより，平成27年4月の定員から395人の定員拡大を図っておりますが，それ以上に入所申込者が増加していることから，引き続き，待機児童解消に向けて努めてまいります。

3つ目のKPIの「子育てしやすいまちと感じている市民の割合」につきましては，第4次総合計画後期基本計画における指標と同一のものとなっており，現在実施しております「市民意識調査」において把握するため，現況値の記載がございません。

主な取り組みとしては，妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を行う「利用者支援事業」のほか，アプリを活用した情報提供などを行う「やちよ子育て応援モバイル事業」などを行っております。

次に右上の「Ⅱ．魅力創出プロジェクト」をご覧ください。

まず1つ目のKPIの「新川周辺が活性化していると感じている市民の割合」につきましては，基準値の40.0%に対し，平成30年度は46.1%となっております。主な取り組みとしては，印旛沼流域かわまちづくり計画の推進のほか，観光ガイドブックアプリ「ココシルやちよ」による新川周辺の観光資源のPRなどを行っております。

2つ目のKPIの「市のイメージが良いと感じている市民の割合」につきましては，基準値の65.5%に対し，平成30年度は66.9%となっております。主な取り組みとしては，市の花「バラ」の普及・啓発のほか，市イメージキャラクター「やっち」を活用したPRなどを行っております。

次に2頁の左上「Ⅲ．しごと応援プロジェクト」をご覧ください。

まず1つ目のKPIの「工業の年間商品販売額」につきましては，基準値から毎年向上している状況となっております。主な取り組みとしては，商工会議所と連携した創業セミナーの開催などを行っております。

2つ目のKPIの「ひとり親家庭の就業率」につきましては，基準値の88.8%に対し，平成30年度は90.5%となっております。主な取り組みとしては，保育付き就職支援セミナーの開催などを行っております。

次に2頁の左下「Ⅳ．環境整備プロジェクト」をご覧ください。

まず1つ目のKPIの「地域医療体制が整っていると感じている市民の割合」につきましては，こちらも現在実施中の「市民意識調査」において把握するため，現況値の記載がございません。主な取り組みとしては，八千代医療センターにおける救急医療事業の推進などを行っております。

2つ目のKPIの「地域消防・救急体制が整っていると感じている市民の割合」につきましては，基準値の44.2%に対し，平成30年度は41.9%となっております。主な取り組みとしては，消防車両の更新及び増強などを行っております。

3つ目のKPIの「災害に備えた対策が適切に行われていると感じている市民の割合」につきましては，基準値の19.0%に対し，平成30年度は18.0%となっております。主な取り組みとしては，防災行政用無線等の増設及びデジタル化の推進などを行っております。

最後に，資料1－3でございますが，設定している24項目のKPIのうち，平成30年度の実績値を把握している15項目の進捗でございますが，目標を達成しているKPIが3項目，基準値より向上しているKPIが9項目，基準値より低下しているKPIが3項目となっていることから，目標達成に向けて，更なる取り組みが必要であると考えております。

以上で，「総合戦略に係る取り組み状況について」の説明を終わります。

○田中座長

ただ今の事務局からの説明について，ご意見，ご質問などがありましたらお願いいたします。

○永長委員

資料1－1の5ページの表の読み方がいま一つ理解できなかったので，わかりやすく説明してもらえませんか。

○事務局

こちらについては，国勢調査における5歳階級別の人口が載っております。調査時点から次の5年後，例えば，0歳から4歳の方が，5年後の5歳から9歳の区分にそのまま同じ数字が載っていれば，転出転入などしていないということでございますが，それがプラスになっているということは，その他の地域から八千代市に転入し増加していることがこちらでわかります。

○永長委員

そうしますと例えばこの紫色ですか。2010年から2015年が一番直近のデータということになるのですか。

○事務局
　はい。2010 年の国勢調査から最新の 2015 年の国勢調査の結果となっておりますので，それを最新の異動状況としてここに示しております。

○永長委員
　八千代市の人間ではないのでわからないのですが，目標値の中で新川周辺の活性化とありますが，八千代市にとって新川はどういう存在でしょうか。

○事務局
　八千代市におきまして新川は最もシンボル的なものでございますので，魅力創出プロジェクトにおいて新川周辺の活性化を調査しております。

○永長委員
　わかればでいいのですが，新川周辺の人口は八千代市の人口でどのくらい占めるんですか。

○事務局
　今お渡ししている資料の中で新川の位置が書かれてないので少しイメージがしづらいと思いますが，資料 1－1 の 6 ページ，人口変動状況の図で説明しますと，その真ん中を灰色の点線があると思います。上は佐山と堀之内の間から下は村上と勝田台南の間まで，市の中心を南北に貫く形で新川が通っております。新川周辺として南側はゆりのき台や村上，北側であれば島田や平戸がありますが，大変申し訳ありませんが，新川周辺として掲げる人口の詳しい数字は手元になくお答えできません。

○永長委員
　人口が減少している地域が多いのでしょうか。

○田中座長
　新川の北側は田園風景が広がっていて，調整区域が多いということで，農業とか盛んでふれあい農業の郷もあります。それから南側は県立八千代広域公園がありまして，中央図書館や総合グラウンド，それから多目的広場，体育館もあっていわゆる賑わいの場となっています。また，上には道の駅がありましていろいろなイベントが開かれています。
　よろしいですか。ほかにございませんか。

○佐藤委員
　もしわかれば教えて欲しいんですけれども，資料 1 の 5 ページの（4）の流出で，流山市あるいは印西市に流出していると大きな人数かというとそうでもないのかなという気はするのですが，この流出している人の年代の把握をしていらっしゃるのかということが聞きたいで

す。

なぜかといいますと，例えば流山市ですと保育園の送迎プロジェクトって市を挙げてやっているかと思うんですね。駅まで親が連れて行くと送迎バスがあってそこから少し離れたこども園の方に送迎バスに送ってくれると。やっぱり働きながら子供を預けるというのは非常に大変なことで，駅の行く途中に保育園があればいいんですけど，遠回りをして預けているというケースも多々あろうと思うんですね。八千代市の勤労世代が八千代市の近くでみんな働いているわけではなく，電車通勤をしているとこういったところも，調査をしていただいて，そういう他市の取り組みなどもですね，検討事項に入るかなと思うことが 1 点。このあたり，年代を数字としてわかるように出してもらえないかなということ。

印西市については印西市の北総鉄道で通学をした場合に，通学定期の半額を市が負担しているかと思うんです。東葉高速も高いといえば高いです。京成は通学の割引率が高いのでそちらを利用しているケースも多いと思うんですが，人口増加の地区，例えば緑が丘周辺は東葉高速を使うしかないんだということになると，賃貸に住んでいたけれども家を買うときというところで印西市も挙がってくるかもしれない。同じように東京に出るにはどうしたらいいだろうかと，そういう勤労世代でなおかつ子供さんもいらっしゃるような世代が流出してしまっているということは，人口減少に負荷がかかる，あるいは新しく子育て世代が入ってくるということについても懸念があるような，悩ましい数字ではないかもしれないんですが，高齢者がそちらの方に高齢者施設があるから転出しているのか，あるいはその子育て世代が何か諸事情があって転出しているのかというところは，今後の検討課題かと思いますのでちょっとそのあたりを知りたいなと思います。

〇事務局

流山市，印西市ともに傾向は同じですけれども，主に 20 代から 40 代前半までの年代の方が転出しているという傾向がございます。それに加えて 0 歳から 4 歳の方も転出されておりますので，やはり世代としては子育て世代に当たると考えております。

〇佐藤委員

次回資料にはそのあたりもわかるように書いていただくと，市民の方もわかりやすいかなと，あるいは検討課題がそこで一つ出てくるかと思いますので，よろしくお願いいたします。

〇田中座長

確かに印西市と流山市は急激に人口が増えているということで住みやすいというようなこともあって，確かに通勤に便利だということもあるし，あとはやっぱり住みやすいというイメージがあると思います。そこで転出している。印西市では買い物がしやすいとか住宅の購入価格が安いといった点もあると思います。いろいろなことを含めてご検討いただければと思います。

他にございますか。それではないようですので次の議題とします。

議題（3）「総合戦略及び人口ビジョンの改訂について」，事務局の説明を求めます。

(3) 総合戦略及び人口ビジョンの改訂について

○事務局

企画経営課の山岸です。私から総合戦略及び人口ビジョンの改訂について，ご説明させていただきます。恐れ入りますが，着座にてご説明いたします。

それでは資料2－1「次期総合戦略について」をご覧ください。「1　策定方針」につきましてご説明いたします。

八千代市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては，計画期間が平成27年度から令和元年度までの5か年の計画となっており，本年度が計画期間の終了年となっております。本来であれば，令和2年度からの新たな計画期間の総合戦略の策定をするところですが，現在，現行の総合戦略の計画期間を1年間延長し，人口減少対策や地域経済の発展を，令和3年度からの次期総合計画の基本計画における重点施策に位置付け，総合計画と一体的に策定する方針で検討を進めております。

その理由につきまして，1つ目は，総合戦略の趣旨である，少子高齢化や人口減少問題の克服，地域経済の発展や活力ある地域社会の形成は，市の課題として総合計画でも取り組むものであり，一体的に策定することにより市民へのわかりやすい説明に繋がると考えられること。実際に現総合戦略の取組を確認したところ，約9割が第4次総合計画後期基本計画に掲載されている施策と重なっております。

2つ目は，進行管理の一本化など効率化が図れること。同じ施策・取組を複数の計画に記載し，それぞれで進行管理や効果判定をするよりも，一本化することで効率的な管理を図ることができます。

これらの理由から，現在の総合戦略の計画期間の1年間延長及び次期総合戦略と次期総合計画を一つのものとして策定することを今後，さらに検討を進めていき，次期総合計画の策定基本方針において決定したいと考えております。

なお，内閣府地方創生推進室が令和元年6月に作成した「地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引き」を確認いたしますと，「総合計画等を見直す際に，見直し後の総合計画等において，人口減少克服と地方創生という目的が明確であり，数値目標や重要業績評価指標（KPI）が設定されるなど，地方版総合戦略としての内容を備えているような場合には，総合計画等と総合戦略を一つのものとして策定することは可能であると考えられます。」とありますので，国も一体的な作成が可能と示しております。

また，計画期間を1年間延長することにより，国の総合戦略の計画期間とのずれが生じることにつきましては，7月2日に開催された地方創生に関する都道府県・指定都市担当課長説明会において，地方自治体の裁量をもって開始時期や期間等を決められるものであるという認識でよいか，との問いに対して，内閣府は，国の総合戦略における5年という期間に合わせなければならないということは国としては求めていないと回答しており，延長により国との計画期間がずれることについても，問題はないと考えています。

次に，「2　総合戦略の改訂」についてご説明申し上げます。

現行の総合戦略の改訂につきましては，基本目標や重要業績評価指標（KPI）は基本的にそ

のまま引き継ぎ，必要に応じて指標の目標値等の変更を行った上で，計画期間を 1 年間延長する予定でおります。

続きまして「3　総合計画と総合戦略の期間」についてご説明申し上げます。

図のとおり，第 4 次総合計画の期間は平成 23 年度から令和 2 年度までの 10 年間で，現総合戦略は，平成 27 年度から令和元年度までの 5 年間です。総合戦略の計画期間を 1 年間延長することで，両次期計画を令和 3 年度からの計画期間で一体的に策定することができるようになります。

続きまして，資料 2－2「人口ビジョンの改訂について」をご覧ください。

「1　策定背景」につきまして，国が平成 26 年 12 月に長期ビジョン及び総合戦略を策定し，地方公共団体においても人口の現状と将来の展望を提示する「地方人口ビジョン」と，地域の実情に応じた「地方版総合戦略」の策定が求められたことから，本市でも平成 28 年 3 月に「八千代市人口ビジョン」を策定しております。

地方人口ビジョンは，各地方公共団体における人口の現状を分析し，今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものであり，地方版総合戦略などにおいて，まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎と位置付けられます。

したがって，八千代市人口ビジョンも，次期総合計画と総合戦略での各施策の企画立案などでの重要な基礎とするため，平成 28 年 3 月策定以降の状況変化等を踏まえた改訂を行います。

「2　人口ビジョンと実績の比較」についてご説明申し上げます。

グラフをご覧ください。青いグラフが，人口ビジョンで平成 27 年 3 月末の人口を基準として将来人口推計を行った推計値で，赤いグラフが実績値となっております。比較しますと，令和元年 3 月末時点までで，やや実績の人口が上回っているものの，ほぼ推計どおり，増加の推移をしております。

「3　改訂の考え方」についてご説明申し上げます。

改訂の内容につきましては，人口ビジョンと実績値の比較のとおり，実績値が現行の人口ビジョンの将来人口推計と大きな乖離はないことから，現行の推計方法を踏襲し，使用している統計データなどを最新のものへ更新する予定です。

また，市民にとって見やすくわかりやすくなるよう，国が提供している RESAS などの分析システムを活用し，地図やグラフ等による「見える化」を図りたいと考えております。

それぞれの改訂案については，12 月頃開催予定の次回会議でお示ししたいと考えております。以上となります。

○田中座長

ただいまの事務局からの説明について，ご意見ご質問がありましたらお願いいたします。

○田中（康）委員

すみません 1 件質問いたします。人口ビジョンの改訂についての実績，青いグラフを拝見したんですけども，2021 年から 2022 年あたりで急激に人口が増えるようになっていますが，

何か要因があるんでしょうか。

○事務局
2021 年から 2022 年の増加している主な要因としましては，やはり西八千代北部特定土地区画整理事業の進展による増加をこちらで見込んでおります。なお，西八千代北部特定土地区画整理事業の推計としましては，萱田特定土地区画整理事業を行った際の換地処分から計画人口に至るまでの推移を参考に，計画人口 14,000 人に達するまでの人口の推計をしたことから，このような推計となっております。

○田中座長
今の西八千代の人口はどの程度ですか。

○事務局
この 3 月末時点でおよそ 5,800 人程度となっております。

○増澤委員
すみません。誠に申し訳ないのですが，八千代市人口ビジョンのシミュレーション結果と資料 2－2 の人口ビジョンの整合性はどのように，同じデータなんでしょうか。例えば 2028 年，平成 40 年ですとシミュレーション結果の平成 42 年のちょっと左側ですかね，シミュレーション結果の 1 から 5 までのうちどれをお使いになっているのか，お聞きしたいです。

○事務局
参考資料 2 人口推計シミュレーションのことでございますが，現在の人口ビジョンの推計値につきましては，この一番下の青い線になっております。左側のシミュレーションの 1 から 5 までの結果を右下のシミュレーション結果として①から⑤として色分けしたものでございます。

○永長委員
八千代市の総人口の総合戦略のポイントはやはり，区画整理されることで，東京に近いということで，周辺から転入してくるというのがターゲットで，もともと八千代に住んでいる方の転出を防ぐとか，今住んでいる方の出産ですとか，戦略の中に入っているんでしょうけどあまり重きを置いていない，むしろ社会増を中心にやっていくという計画でよろしいんでしょうか。
私も茂原市でこういったのに関わったんですけど，茂原の場合は転出が多い。昔は結構人口も多くて，工業も盛んで日立とか企業がありましたので，それが最近はどんどん転出してしまうことだったんで，地元の高校生をターゲットに，高校生がどこに行くか，卒業後の進路とか実際に今の茂原市の高校生はどこの出身の人がいるか調べたりして，実際に八千代市にいる方がどういう動向をしているかを見ていたんですけど，八千代市の場合は本当に東京

に近いので，鉄道が整備されて人が入ってくるんでしょうけど，気になるのは米本団地もそうですけど，昔は八千代台なんかもその頃ちょうどできたのが皆さん高齢になってきて，息子さん子供たちはみんな出ちゃっている。社会増もいいんですけど，もちろんこの魅力っていう部分もいろいろ取り組んでいるようですけども，ちょっとデータ的に八千代市の中の人たちがどういう動向をしているかの把握がちょっと少ないような気が今日の資料を見て思ったので質問しました。

○事務局

総合戦略の取り組みの中で，若い世代応援プロジェクトがございます。その中で結婚応援，出産応援，子育て応援といったところで，それぞれの世代・段階におきまして支援を行っていく取り組みをプロジェクトの中で組み込んでいます。社会増を増やしていく取り組みと合わせて，子育てしやすい環境に向け取り組んでいるところです。

○永長委員

初日からあんまりきついこと言わないんですけども，若い世代が転入するときの選択の条件で保育園があるのは条件になると思うんですけども，八千代市の場合は産婦人科が足りているんですか。

○事務局

八千代市の産婦人科で実際にお産できる産婦人科が 3 か所ございます。特に東京女子医科大学八千代医療センターは高度な医療を展開しているのが 1 点ありまして，それ以外の地域に根差した産婦人科については，お産ができる産婦人科が数少なくて，たしか 2 か所だったと思います。それ以外の通常の産婦人科も点在していますが，お産ができる産婦人科が少ないんですけども，安全面というところでは東京女子医科大がございますので，周産期医療もございますので，八千代市に住んでいらっしゃるお母様方にとっては非常に安心感があると思います。

○佐藤委員

今の人口規模で出産ができる産婦人科が 3 か所は多いのか少ないのかっていう基準がそもそもよくわからないんですね。はっきりと調べてないのでわからないんですけど都内はもっと深刻でして，6 か月くらいまでは普通の産婦人科で診てくれるけど，周産期に入ってお産や入院ができる病院となると 1 時間あるいは 2 時間掛かりますがそこもいっぱいなので，どうしようもないから実家に帰ってお産しなければならない不安を抱えながらお産を迎えている女性もすごく多いんですね。都内の場合は地方から来て居を構えている家庭も多いので，自分の実家近くに帰ることも多かろうと思うんですけど，八千代市の場合はどうなのか。その後に続く小児科の数で，小さいお子さんやアレルギーをお持ちのお子さんの家庭ですとか，これから結婚して子育てをしようとする方は先程の保育園の送り迎えだけでなく，あらゆる面を含めて総合的に判断して，ここに住むかどうか，子育てを継続していくか，小学校を途

中で転校させたくない気持ちも当然あると思います。そういったところも含めて取り組みが十分なのかなっていうのが一点。

それと私市民ですけれども結婚とか何か政策が具体的に感じないんですけど，一体何をどんなふうにいつやられているのか。どちらかが八千代市に住んでいて実家も近くて，利便性が高いのであれば，自然増でどんどん子供が増えてくるだろうと思うんですけど，地方の少し都心から離れたところとは多少流出入が変わってくると思いますので，自然増を増やす際はそもそも結婚する前の世代からずっと高校，大学からずっとここにいてもらわないと当然増えないと思うんですね。自然増をやるとなると今の八千代市に住んでいる人をずっと引き留めておくのかっていう視点と，あとは逆に駅前の開発が進んでいますので，またそういったところの社会増で子育て世代を応援していく辺りがよくわからないなと。マンションの発売元のチラシの方がとてもよくわかって，小学校まで歩いて何分か小児科近くにありますとか，そういったところが市として十分発信できているのかと少し思います。

結婚のプロジェクトもそうですが，それを本当に市を挙げてやるのがいいのかどうか，どういうことをやっていたのかも私自身がその世代じゃないから知らないだけかもしれませんけど，実際この戦略に書いてあることと実態がかけ離れているというのは取り組みとしてどうなのか，1回目から厳しいこと言わないようにとのことなので，説明に関する感想みたいですけど，以上です。

○田中座長

ここに KPI で子育てしやすいまちと感じている市民の割合は 27 年度実績が出ているんですけども，市民意識調査を今アンケートでやっているということですが，いつ頃結果が出る予定ですか。

○事務局

現在実施しており，調査の回答期限が今月末となっております。その後の取りまとめ結果につきましては，年度内になってしまうと思いますが，年明け頃にはまとまると考えております。

○田中座長

やはり子育て世代が住みやすいと感じていれば，当然人口が増えて子供も増えてくると思います。特に感じたのは，病後児保育が 1 か所しかないとのことで，他の市と比べると少ないような気がしますので，ご検討いただければと思います。

その他に皆さんの方から何かご意見ございますでしょうか。

○田中（康）委員

先程の産婦人科医院で佐藤委員もおっしゃったように，東京女子医科大学以外 2 か所しかないってことはちょっとびっくりしたんですが，そのうちの 1 か所は聞いた話ですともうご高齢で，親族に後継者の方もいらっしゃらなくて，近い将来，場合によってはそこが閉める

可能性もなくもないと。そうすると八千代市内に東京女子医科大学以外 1 か所しか産婦人科医院が存在しない中で，子育てで増やしていこうとすると早めに手を打っていかないといけない。市の方でも医療モールですとか手を打っていかないと，住む方も本当に住みやすいとは言えないんじゃないかなという感じがいたします。

○田中座長

東京女子医大は周産期医療ということでかなり高度な医療をやっていて，おそらく県内で 2 か所の指定されているうちの 1 か所なので，何か問題があった場合は相当高度な治療できるということで，そういう意味では非常に安心だと思います。他の市からも結構受け入れておりますので，ただやっぱり普段行ける産婦人科が 2 件しかないのは私もびっくりしました。そこはやはり医者を呼ぶなどの努力も必要じゃないかと思いますが，事務局いかがですか。

○永長委員

すみません県の立場で言わせてもらいますと，千葉県は医者そのものが少ないというのは残念ながら事実でありまして，千葉大学医学部が県内の公立病院などに医師を派遣していたけれども手を引いてしまいまして，みんな東京の方に行ってしまって，いくらお金を積んでも来ないです。特に千葉の南や東の方はいません。若い医者はお金があっても遊ぶところがないとつまらないみたいで，みんな東京に行ってしまいます。その中でも特に産婦人科は医療事故の問題でどんどん辞めてしまう方が多いです。

ちなみに茂原でも 10 年前までは 8 か所あった産婦人科医院が今 2 か所で，先程田中委員もおっしゃっていましたが，そのうちの 1 か所はもう高齢で辞めると言っている状況です。

なかなか市単独では難しい話ではあるんですけど，ただ計画の中に現実として産婦人科がどうあるかっていうのはちょっとなってないのかと思います。ただ医師を確保するのは県でもやっているのですがなかなか難しいのかなと思っていて，産婦人科も 1 人いればできる訳ではないので，スタッフも含めると難しいのかなと思っています。

○田中座長

4 ページの合計特殊出生率で出生数が平成 29 年度 1,475 人と書いてあるんですけど，八千代市内の産婦人科あるいは東京女子医大で賄われているのか，他に行ってしまったのか，これだけの人数受けられないですよね。おそらく他のところに行っていると思いますので，どのような形になっているか調べた方がいいんじゃないかという気がします。

他に何かご質問等ございますか。

○佐藤委員

何度も恐縮ですが子育て世代に議論が集中したんですが，環境整備プロジェクトにある高齢者・障害者支援の取り組みを行いますと雑駁に書いていらっしゃるんですけど，千葉大学の近藤克則先生が「長生きできる町」という本を今年出されていまして，例えば段差が少ない，適切なお散歩コースがある，あるいは高齢者の交流が大変盛んだということで，高齢者

が長生きではあるけれども医療や介護が必要だとなると市の財政負担は極めて重くなるわけですよね。それは財政負担が重くなれば適切に子育てあるいは勤労世代に配分が少なくなる。社会保障に取られていき絶対費として掛かります。

子育て世代の社会増というのは明るいイメージなので，若い世代がこちらに来てくださるというのは，すごくフレッシュで地域活性化はまさしくそういうことだろうと思うんです。ただ高齢化はやはり八千代市もどうしても避けて通れない問題だということを考えると，この高齢者や障害者支援の取り組みということの細かな目利きというか，私今日八千代中央駅から市役所まで歩いてまいりましたが，皆さんも電車の方は通勤で歩かれているかと思うんですけど，自分が年を取った時に歩けるだろうか。途中の竹やぶでは中の竹が枯れている，空き家でも廃屋があるような，市の中心の大変整備された区域でもそういうことがある。

本当に 5 センチの段差で高齢者が転んで転倒して，その後リハビリがうまくいかなければ寝たきりになる。長生きできる町かどうかと言うのは，市の財政負担をいかに健全なものにしていくかということで急務で取り組むべきことであって，介護や医療のスタッフの人員が人口規模程度に揃うのかどうか，これこそ他の市町村との人材の奪い合いというのは当然起きていますので，それも含めてずっと暮らせる良い街なんだという取り組みをアピールしないとやはりいけないだろうと思います。

子育て世代が入ってくる，当然八千代市は高齢者にも優しくて，最初の 65 歳の高齢者というくくりがあって，高齢化率はどんどん上がってくるんだって話なんですけど，70 歳でも 75 歳でも元気な方は働いて社会参画をするということであればその方は社会と繋がっている人口ですので，この層をいかに増やすかっていうことが実際子育て支援の裏に隠れている本質的な問題だろうと思いますので，そのあたりも含めてもう少し，いろいろ多分細かな施策があって概要版なのでわからない部分もあるかと思うんで，私も知らないことばかりなのでまた教えていただければと思いますし，何かこういうことをやっていますということがあったら，是非この場でご紹介をいただければと思います。

〇事務局

ただいま委員からご指摘のありました高齢者の方に元気に働いていただく取り組みでございますが，戦略のしごと応援プロジェクトの中で高齢者や女性の再就職支援を行っております。就職支援のセミナーなどを開催させていただいて，実際にシニア向けに募集している企業との結び付きの取り組みなど行っております。

〇佐藤委員

それは概要版を読んで私も承知しております。八千代市の包括支援センター運営協議会の市民委員もやっております。働ける方は積極的に外に出られていて，働こうと思っている方も含めて社会感覚の意思があるんですけれども，働くまではできないけど，地域でいろんな手伝いがしたいという高齢者もいまして，それが健康を保つ基であったりします。

私は三重県の玉城町というところで第 1 期の委員をやっていたんですが，そこはやっぱり「健幸なまちづくり」，健やかに幸せと書いていたんですけども，取り組みを率先してやって

おられたんですね。高齢者向けではないんですけど無料のバスを元気バスと名付けて町内を循環させて，閉じこもりにさせないというようなプロジェクトがあって，電話でいつ何時どこに行きたいと言うと近くまで来てくれる。路線バスではありません。町が全額負担でやっていて，健幸なまちづくりのためにどうしたらいいか，高齢者も地域を支える大事な人口なんだという取り組みでやられていたということを考えると，包括支援センターでいろいろな話を聞きますと，家庭の負担，専門人材の負担が大変大きいと感じています。

今はまだ八千代市は若い街なのでなかなか実感しにくいと思うんですけれども，5 年後 10 年後は高齢者がぐっと増えると，今この時から高齢者のための施策をどうすべきかは現実的に考えていかなきゃいけないだろうと。

例えば,段差を少なくすると言ったら,歩道の段差を少なくすると大変予算がかかります。これをどうするかは市を挙げて総合的に考えていかなければならない。転んでしまってその後寝たきりになる，これは高齢者が後期高齢者になればみんな市の持ち出しですから，どれだけ増えるかということになろうと思いますので，その点も含めてきめ細やかな対応を。あるいは市民のニーズがどの程度なのか，高齢者になってアンケートに答えられないぐらいの方の意見をどう掬い取るかも含めてご検討いただけたらと思います。

○田中座長

今佐藤委員が言われたことは非常に大事なことだと思います。やはり高齢者の方はこれからどんどん増えていきますので，そういう方に対して住みやすい街だと感じていただく施策をどのようにやっていくかということは非常に大事なことだと思います。ゆくゆくは我々も当然年を取って介護が必要なことになっていくことも考えられるわけです。是非その辺は施策として考えていただければと思います。

そのほかに何かございますか。

○島委員

先程から子育て世代の話や高齢者の話が多かったんですけれども，私としては逆に労働者側からすると，私自身市内で住んでいて市内で働いていて，小学校からいますので，収入を得られるようになるまでに 15 年以上かかっています。ある種自然増の領域になるのかなと思うんですけど，逆に言えば自然増になるまでにそれだけの時間がかかる。

確かに市として 5 か年や 3 か年の仕事を考えると，社会増を狙っていかないと予測がつかないですよね。国が足並みを揃えなくてもいいと言いつつも，市が方針として違うことをやれば，当然合わないわけで，何をやっているのかという話をされると思います。だから非常に難しい。

これ実話ですが，つい 2・3 週間ぐらい前に社内で肘の辺りを失う災害がありまして，八千代市の病院で治療ができないということで，北総病院に行っています。高度な治療と言いつつもできないことも起きていて，まだまだもう少し頑張って欲しいなと思うことがありました。

子育て世代や高齢者の方に手厚くやっていくのも一つなんですけども，現役で働く人達を

確実に取り込めるような状態に持っていっていただきたいなと思います。まずは市内で仕事がある状態に，私は上高野の地域ですが，八千代と吉橋の 3 工業団地の横の繋がりが非常に弱いです。過去にリーマンショックの時に人の貸し借りができないのか話をしても，うやむやに終わってしまったということもあって，この先どうなってしまうのかなと。企業によっては撤退されているところもあります。認識されていないんであれば把握してください。

セミナー等で中小企業の活性化を仕事応援プロジェクトでやっていると言いつつも，市内で来てくださいという声はあまり多くないと思うんですよ。その辺も目を向けていただいて，お金をかけるところかどうかわからないんですけども，もう少し横の繋がりが強化できれば仕事の創出が増やせて，市としてもう少し受け入れたいという要求が出てくると思います。要求が出てくれば住む場所を作らないといけない。その場所を作るからプロジェクトとして，どこに家を建てようか，マンションを受け入れようかという話が進展するんではないかなと思います。感想程度なんですけど御参考までにお伺いいただければと思います。

○田中座長

確かに工業団地を見ていますと，工業の年間の販売額が上がっているんですけども，実際には工業団地の中で工場が撤退して物流倉庫に変わっているケースが多く見られますので，そこでは雇用がそんなに生まれていないような気がします。企業立地をもっと推進していただければ工場ができてそこで働く人も増えて，八千代市内に住みたいという人も増えてくるんではないかと思います。

○増澤委員

一つお聞きしたかったことは今のご発言のとおりで，一人の人間が八千代に定着するまで 15 年間かかることは全く私も同じことを言おうとしていたところでございます。

私の疑問は資料 2－2 人口ビジョンと実績で，2021 年から 2022 年，ここで急に上昇している中身は何かということを一生懸命ひも解いておりましたが，2 点不明なところがございます。

企業は中期計画，長期計画がありますので，10 年後までは計画が立っております。それから人口動態，転入転出ももう決まった話でございます。その中で我々の最終目標は，まち・ひと・しごと創生プロジェクトを達成して人口上昇を達成すると私は解釈しております。そうなると推計上のピーク 20 万 4 千人の中に，プロジェクト効果で何人，それから 2012 年以降は外国人も入っておりますので，外国人の増加数が何名と。それから特に企業との連携，工場誘致などで何名増えるか。そういった内訳を是非教えていただきたいなと思いました。それによって我々のプロジェクトの目標がはっきりとわかるんではないかと愚考いたします。

○事務局

人口ビジョンのピーク時における日本人と外国人の内訳は今わかる範囲でお調べいたしますが，参考資料 1 の 2 に目指すべき展望がございまして，ピークより先を記載しております。平成 72 年まで人口が減少していきますが，地方創生総合戦略の目的は今後の人口減少と少子

高齢化で，それに向けた対策を進めておりまして，推計としましては 172,013 人まで減りますが，そのプラスアルファでなるべく推計値よりも上にする，例えば出生率が高くなることによる自然増ですとか，社会増は日本全体で見ると人の取り合いみたいになってしまうのですが，八千代市としては社会増と出生率の増でこのプラスアルファをどうしていくか，日本全体で見れば団塊の世代の方々が高齢化して更に人口が減少するので，そのカーブをなだらかにしていくのが一つの趣旨でございますので，ご理解いただければと思います。

○増澤委員

今のご説明で大変よくわかりました。私の質問はあくまで今回のプロジェクトの数値目標が知りたかったということでございます。今のご説明で我々の使命は平成 72 年までのこのプラスアルファをどうするかにあるということで了解いたしました。平成 39 年までの数値の細かい内訳は結構でございます。

○田中座長

他に何かご質問ご意見等ございますでしょうか。それではないようですので次の議題に移ります。

議題（4）「その他」ですけども事務局から何かございますか。

（4）その他

○事務局

お配りしている参考資料 4 の今後のスケジュールについて，簡単にご説明させていただきます。本日第 1 回懇談会を開催させていただきまして，次回は 12 月頃に第 2 回を開催したいと考えております。そこで現行の総合戦略を 1 年間延長する改訂や人口ビジョンの改訂の素案についてお示ししたいと考えております。その後パブリックコメントを実施しまして，2 月頃に 3 回目の懇談会を開催しまして，最終的な計画案についてご意見等を伺えればと考えております。以上でございます。

○田中座長

ただいま事務局から説明がございましたが，ご質問等ございますでしょうか。

○佐藤委員

次回の将来推計のグラフですが，平成表記だと混乱してしまうので，西暦に変えていただいた方がよろしいのかなと。全体を見直していただいて，併記していただいた方がよろしいかなと思います。

○事務局

今回お配りしている参考資料 1・2 につきましては，ご指摘のとおり平成表記のままでお配りしてしまいまして，わかりづらく申し訳ございません。次期改訂案につきましては，西暦

や和暦の令和を含めて，わかりやすい表記に努めてまいりたいと考えておりますので，ご了承いただければと思います。

〇町塚委員

話が元に戻ってしまうかもしれませんが，今回委員の皆様からいろいろなご意見がある中で，若い世代の話や高齢者の方の対策ですとか，いろいろなご指摘があったと思います。そういう意味では，今の施策が十分であるとは言えないということだと思っておりますが，一方で参考資料１の戦略１や２を見ると，広い意味では若い世代のプロジェクトや仕事の支援ですとか高齢者向けの環境整備がここに盛り込まれていることでもあると思いますので，実態としてはいろいろとこのプロジェクトの中で取り組まれているというふうに理解をいたしました。

我々自身がそれを余りよく理解していないということや，これらのプロジェクトが外向きにしっかりとどれだけ発信されているかということも，今回話をお聞きして課題として感じるところでございます。

いくつか今日話があった他市のケースなどでは，比較的分かりやすいコンセプトやわかりやすい言葉を使って，まとめて外向けに発信をしているケースがよくできているということだったと思います。すでに今あるこの戦略やプロジェクトもいろいろと考えて作っていただいて網羅もされていると思うので，これをどれだけわかりやすくまとめて外に多くの人に知っていただくような取り組みをしていく必要があるのではないか。ここが課題として一つ認識するポイントではないかなと思いました。

〇田中座長

非常に大事なことだと思いますし，周知をいかにしていくか分かりやすいコンセプトわかりやすい言葉で市民にできるだけ周知して理解していただくかということは非常に大事だというふうに思いますので，よろしくお願いいたします。

それでは，以上をもちまして本日のまち・ひと・しごと創生懇談会を閉会といたします。長時間にわたりご協力いただきましてありがとうございました。